

[学会]

第4回千葉カルシウム代謝研究会

日 時：昭和59年2月29日(水) 午後5時より

場 所：ホテルニューツカモト

1. 骨粗鬆症に対する $1\alpha\text{-OH-D}_3$ の治療成績

大木健資, 林 輝彦 (国立国府台・整形)

閉経後骨粗鬆症10例に対し、活性型ビタミンDである $1\alpha\text{-OH-D}_3$ を6カ月間投与し、その治療効果について検討した。〔結果〕 $1\alpha\text{-OH-D}_3$ 投与前後において血清 Ca, P は不変であり、血清 Al-P は減少傾向を示した。血清 Al-P の減少については脊椎圧迫骨折のときに一時的に上昇する血清 Al-P の影響を考慮する必要があることを示した。

V-D metabolites では $1,25(\text{OH})_2\text{D}$ の増加を認めた。

PTH, CT ははっきりした傾向はつかめなかった。MD 法による骨萎縮度の検討では MCI 不変, GS min は僅かに増加, $\Sigma\text{GS/D}$ は不変であった。臨床症状の経過はほとんどの症例で改善が認められ、重大な副作用はなかった。文献的には骨萎縮度は改善されるとするものが多いが、その成績にはばらつきがあり、骨粗鬆症の病因が複雑かつ heterogenous であることを示している。活性型 V-D を基本療法とした各種骨粗鬆症治療併用により治療成績向上が期待される。

2. 尿管機能異常疾患における腎の $1,25\text{-(OH)}_2\text{D}$ の産生能に関する検討

西岡 正, 安田敏行, 柿沼宏明, 高柳正樹,
新美仁男, 中島博徳 (千大・小児科)
倉山英昭 (国立千葉東)

近位尿管を介する Ca 代謝系は h-PTH (1-34) 負荷に対する尿, 血中 cAMP, 尿中磷排泄及び血中 $1,25\text{V-D}$ の反応に反映される。私達は代謝性アシドーシス (M.A と略す) の強い腎尿管疾患である Lowe, Fanconi 症候群, 及び腎糸球体疾患であるネフローゼ, 腎炎にこの負荷試験を行ない、腎の Ca 代謝病態について検討した。

(結果) Lowe 症候群では cAMP の基礎値, 上昇量及び磷排泄の指標の $\Delta\text{Pi/Zhr}$, % TRP 又 $1,25\text{V-D}$ の基礎値, 上昇量とも正常であった。Fanconi 症候群では

前2者がやや低値であったが、 $1,25\text{V-D}$ の反応は正常であり、M.A は PTH を介するこの系に大きな影響を与えず、これらの疾患の rickets は M.A そのものによる事が示唆された。一方腎糸球体疾患ではいずれの反応も著しく低く、これらでは糸球体機能の低下から予想されるよりかなり早く、尿管 V-D 代謝機能が低下するものと思われた。

3. 尿路結石と原発性上皮小体機能亢進症

村上光右, 宮内大成, 甘粕 誠, 伊藤晴夫,
島崎 淳 (千大・泌尿器科)

原発性上皮小体機能亢進症27例について、術前の状態、検査所見、術後経過を調べた。腎型24例、骨型1例、化学型2例、本症の尿路結石に占める頻度は1.6%、再発結石に限ると6.8%であった。年齢は17~60歳、男15例、女12例。結石部位は腎結石20例、尿管結石7例、膀胱結石2例。症状、尿路結石を主訴としたもの89%、胃腸症状33%、易疲労感、高血圧は22%にみられた。骨変化30%にみられ手指骨に骨膜下吸収像を呈した。血清 Ca 値は93%、P は89%、Al-P は81%に異常値をみた。尿化学、71%に高 Ca 尿をみ Ca 排泄量の高値にともない尿路結石の合併をみる。% TRP 82% PTH 67%に異常値をみた。Ca 負荷テストは5例全例陽性。手術と術後経過、腫瘍部位右上26%、右下19%、左上19%、左下33%、異所性として胸腺左葉に1例、腫瘍の大きさ52mg~30g。組織腫瘍23例、過形成5例。術後血清 Ca はほぼ第3病日に最低値を示し、第7病日にほぼ正常。Al-P 値も2~4週で正常化。結石も自排5例で悪化はない。

4. 腎の PTH 不応性とその病因としての免疫異常

山田研一, 田村 泰, 吉田 尚
(千大・2内)

(目的) Albright's Osteodystrophy として特徴づけられている仮性副甲状腺機能低下症 (PHP) は PTH に対する腎または骨の生理的不応と考えられており、その